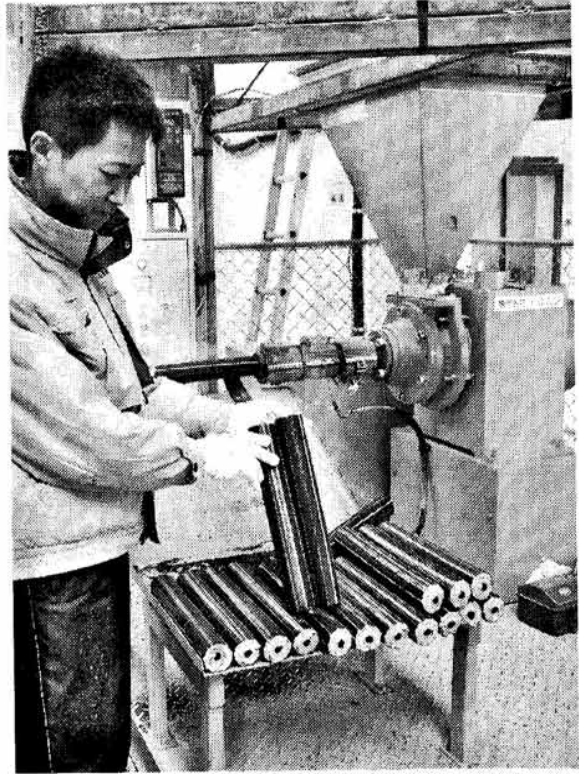


もみ殻の固形燃料を製造する加工機械と製品を手にする鈴木社長



### 農家のもみ殻 圧縮し成形

## バイオマス燃料販売

の地  
大イ金  
今ミラ

【今金】米どころ今金の有限会社ミライ大地(笹森俊重社長)が、もみ殻を圧縮成形した固形のバイオマス(生物資源)燃料の販売を今月から始めた。同社は「環境に優しい燃料」とPRしている。

親会社の外山建設(鈴木志宏社長)が、もみ殻の処理に困っている農家が多いことに着目し、広島県内の会社が開発した加工機械を導入した。もみ殻を粉碎し、二六〇―三〇〇度の高温で圧縮し棒状に成形する。もみ殻中のリグニンが接着剤の役割を果たし、添加物は加えてないという。

商品名は「もみ薪まきっ子」。

「子」。製造担当の外山建設によると、カロリ―換算で「もみ薪っ子」約二・五ギが灯油一リットル分の木質ペレット用のストーブ、まきストーブで使用でき、家庭や園芸ハウスの暖房はじめキャンプなどの燃料、保管のしやすさから非常用備蓄燃料としても勧められている。着火には着火剤が必要。

製造開始に当たり同社でせたな、今金の農家に、もみ殻提供を呼び掛けたところ、三十戸から約百五十戸が集まり、町内八束の工場に一日に製品約四百ギを製造している。

価格は直径約五ギ、長さ三十五ギの製品二十三本入りの一箱(約

二十ギ)が九百四十五円。家庭用ストーブで、十時間当たりのランニングコストは約三百四十円という。地域還元で今金とせたな町内は、一箱七百三十五円に設定し、無料配送や灰の回収も行う。「もみ薪っ子」に適した木質ペレット用ストーブ(家庭用七万三千五百円)も販売している。

十八日に町老人福祉センターで開かれる道主催のセミナー「地域の有効利用と森林づくり」で実演・展示する(午後一時―同四時)。工場見学も受け付ける。問い合わせはミライ大地0137・82・3371へ。(野崎正夫)